審査様式２－１

氏　　名	Do Long Giang
学 位 の 種 類	博士（障害科学）
学 位 記 番 号	博甲第　7588　号
学位授与年月	平成　27 年　12 月　31 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科
学 位 論 文 題 目	Reading Characteristics of Hearing Impaired Children in Special Primary Schools in Vietnam （ベトナムの聾学校小学部における聴覚障害児の読みの特徴に関する研究）

主　　査	筑波大学教授	博士（教育学）	鄭　　仁豪
副　　査	筑波大学教授	教育学博士	原島　恒夫
副　　査	筑波大学准教授	教育学博士	加藤　靖佳
副　　査	筑波大学准教授	Rh.D.	八重田　淳

論文の内容の要旨

（目的）

児童期の読みは、学校場面では学習スキルとして、日常生活においては他人とのコミュニケーションの道具として重要な役割を担っている。ベトナムでは、聴覚に障害のある子どもたちの教育は、主に聾学校で行われているが、その聾学校の教育内容の中心をなす読み書きなどの言語教育や指導に関する実態はほとんど知られていない。ベトナムの聴覚障害児の読みの能力に関する先行研究は、通常の小学校に在籍する聴覚障害児 4 年生と 5 年生の読解力を調べ、健聴の小学 4 年と 5 年生に比べて遅れていることを指摘した Bui（2002）の研究があるのみである。聴覚障害の子どもたちは、重複障害の場合を除き、知的な問題はなく、学校での効果的な学習を通じて、社会にうまく適応することが可能である。そのためにも、聴覚障害の子どもたちの読み書きの実態を的確に把握し、必要な教育と指導を行うことが求められている。

そこで本研究では、ベトナムの聾学校における聴覚障害児の読みの特徴を明らかにするために、聾学校に在籍する聴覚障害児を対象に、（１）読解力の全般的評価を行い、その背景をなす言語的要因として（２）語彙力、（３）統語力、（４）比喩言語力を、個人要因として（５）読みの方略の特徴を、健聴児との比較を通して明らかにするとともに、聴覚障害児を取り巻く環境的要因として、

（６）聾学校における読み指導の現状と（７）聴覚障害児の家庭要因の特徴について明らかにした。また、これらの知見をもとに、聴覚障害児の読みの能力を向上させるための提言を行った。

（対象と方法）

聴覚障害児の読解力の評価を行った研究 1 では、教育現場で広く使われている読解力テストを用いて、聾学校 6 校の小学部 2 年生から 5 年生までの聴覚障害児 218 名と通常の小学校 2 校の健聴児 540 名との比較を通して、聴覚障害児の読解力の特徴を調べた。続いて、読解力を支える言語的要因について、研究 2 では、国語教科書の語彙を題材とした語彙力テストを用いて、聴覚障害児 218 名と健聴児 554 名との比較を通して、また、研究 3 では、国語教科書の統語文を題材とした統語力テストを用いて、聴覚障害児 214 名と健聴児 539 名との比較を通して、研究 4 では、国語教科書のイディオムとことわざを題材とした比喩テストを用いて、聴覚障害児 215 名と健聴児 557 名との比較を通して、聴覚障害児の語彙力・統語力・比喩言語力の特徴を調べた。研究 5 では、読解力を支える個人要因について、聾学校 3 年生と 5 年生聴覚障害児の Good Reader 19 名と Poor Reader 20 名、健聴児 Average Reader 20 名を対象に、物語文読み時の物語文法の使用状況から、聴覚障害児の読み方略の特徴を調べた。また、読解力にかかわる環境的要因について、研究 6 では、聾学校 11 校の教師 54 名を対象に、質問紙を用いて聴覚障害児の読み指導の現状と問題点を調べるとともに、研究 7 では、聴覚障害児の Good Reader の親 27 名と Poor Reader の親 28 名を対象に、質問紙を用いて聴覚障害児の読み成績に影響を及ぼす家庭環境の特徴について調べた。

（結果）

研究 1 の読解力の結果では、聴覚障害児は健聴児に比べて読解力が全体的に低く、聴覚障害児 83%が健聴児の読解力下位 25％の集団に属することが明らかになった。聴覚障害児 17%のみが健聴児の平均あるいはそれ以上の読解力を示すことが示唆された。しかしながら、聴覚障害児の読解力も低いレベルではあるものの、学年の進行に伴う発達傾向が示されることも明らかになった。聴覚障害児の年齢や聴力レベルは読解力との関連は見られなかった。このような低い読解力の背景を調べるために、語彙力、統語力、比喩言語力といった言語的要因、読みの方略といった個人要因、学校と家庭環境といった環境的要因から、検討が行われた。研究 2 の語彙力の結果では、聴覚障害児は健聴児に比べて語彙力が低く、聴覚障害児の 99%が健聴児の語彙力の下位 25％の集団に属し、聴覚障害児の 1%のみが、健聴児の平均またはそれ以上の語彙力を示す集団に属することが明らかになった。語彙力においても、読解力と同様に、低いレベルの語彙については学年の進行に伴う発達傾向が示されている。研究 3 の統語力の結果も、聴覚障害児は低い統語力を示し、聴覚障害児 77%が健聴児の統語力下位 25％の集団に属すること、聴覚障害児 23%のみが健聴児と同等あるいは高い語彙力を示す集団に含まれること、また、低いレベルの統語課題で測った場合、学年の進行に伴う発達傾向が示されることが明らかになった。研究 4 の比喩言語力に関するテストの結果では、健聴児に比べて、聴覚障害児の比喩言語力は低いこと、しかしながら、低いレベルの課題では聴覚障害児の学年進行に伴う発達傾向が示された。個人要因としての読みの方略を調べた研究 5 の結果では、聴覚障害児は、全般的に物語構造を効果的に活用していないこと、しかし、聴覚障害児の Good

Reader は高学年になると、健聴児と同様に、効果的な方略を採用すること、一方、Poor Reader はいずれの学年においても効果的な方略の活用に困難を示すことが明らかになった。聴覚障害児の環境的要因を調べた研究 6 の結果では、各聾学校には個別のカリキュラムが運用されていること、聴覚障害児の入学年齢は遅く、同学年においても幅広い年齢の聴覚障害児が在籍していることが示された。また、教師のほとんどは特別支援教育免許を保持しておらず、読み指導に必要な専門的知識やスキルの欠如から様々な困難を抱えていることが示唆された。また、家庭環境に関する研究 7 の結果では、Poor Reader の家庭に比べて、Good Reader の家庭では、両親が聴覚障害児の学習の進捗状況や問題点についてよく熟知しており、教師や他の両親と情報交換を行っていること、Poor Reader の家庭では、両親は子どもの将来に影響する勉強について関心が高いことが示された。

（考察）

ベトナムの聾学校に在籍する聴覚障害児は、読解力の結果に示されるように、全般的読解力が低く、80％以上の聴覚障害児が健聴児の下位 25％の読解力しか持たないことが明らかになった。このような傾向は、日本や欧米諸国でも同様の結果が報告されているが、健聴児の下位 25％の読解力に属する 80％以上の聴覚障害児集団においてはその成績のバラツキが大きく、ベトナムの聴覚障害児の読解力は、日本や欧米で報告されている状況より、より低いレベルにあることが考えられた。しかしながら、読解力の低い聴覚障害児においても学年の進行に伴う緩やかな発達傾向が確認できた。この読解力をなす背景を調べるために、語彙力、統語力、比喩言語力といった言語的要因、読みの方略といった個人要因、そして聴覚障害児を取り巻く学校と家庭といった環境的要因の特徴について検討が行われた。まず、言語的要因の特徴として、聴覚障害児の語彙力、統語力、比喩言語力は、すべて読解力との相関が示されており、健聴児に比べて、低いレベルに留まっていることがあげられた。しかしながら、聴覚障害児においても、全体的に低いレベルでの発達傾向は示されており、このことは、ベトナム聾学校における同学年での年齢幅の広さを考慮すると、聴覚障害児の語彙力、統語力、比喩言語力は、学習のみならず、経験により培われる側面があることが推察された。また、これらの言語的要因の中で、語彙力はとくに成績が低く、聴覚障害児の読解力は語彙力に大きく影響されていること、また、統語力と読解力との相関が強く示されることから、統語力が聴覚障害児の読解力の重要な予測因子となり得ることが示唆された。上記の結果から、語彙力、統語力、比喩言語力といった基本的言語力の制約は、聴覚障害児の読解力に大きく影響を及ぼしていることが考えられた。また、聴覚障害児の読解力と読みの方略とは密接な関連を持つことが示され、聴覚障害児は読みの方略の効果的活用に困難があること、一方、聴覚障害児の Good Reader は、高学年になると健聴児と同様に、効果的な物語構造を採用していることから、読みの方略が生活経験を通して培われる側面を有することが示唆された。聴覚障害児を取り巻く環境的要因の特徴としては、ベトナムの聾学校の教育環境と家庭での保護者のかかわり方の特徴があげられた。聾学校の教育環境は、教師の専門性の不足、適切な施設・設備の欠如、指導プログラムの不在のような読み指導における多くの問題点や課題が示された。聴覚障害児 Good Reader と Poor Reader の家庭環境の比較では、Good Reader の親は、子どもの聴覚障害を受け入れ、子どもと効果的にコミュニケーションをとり、子どもの教育に積極的にかかわることが示された。

本研究では、ベトナムの聾学校における聴覚障害児の読みの読解力は、健聴児に比べて低いこ

と、しかし、聴覚障害児においても読解力の低いレベルでの緩やかな発達的傾向が示されることが明らかになった。このような読解力をなす言語的要因からも、聴覚障害児の全般的な語彙力、統語力、比喩言語力の低さが示されており、その関連要因として、個人の読みの方略や学校や家庭の環境の要因が指摘され、以上の知見を踏まえた指導や教育の必要性が考えられた。最後に、ベトナムの聾学校に在籍する聴覚障害児の読み能力を向上させるために、教師、聾学校、親、社会などによる総合的な支援と対策の必要性について指摘した。

審査の結果の要旨

（批評）

本論文は、ベトナムにおいて究明されていない、聾学校小学部児童の読みの特徴を明らかにした研究である。研究では、まず、聴覚障害児全体の読みの能力として読解力の評価を行い、その読解力の背景をなす、語彙力、統語力、比喩言語力といった言語的要因、文章理解時にみられる読みの方略といった個人要因、その聴覚障害児を取り巻く学校と家庭という環境的要因の特徴について検討を行った。研究の結果、全般的に読解力は、同学年の健聴児の読解力下位 25%に属し、大きく遅れていること、その背景に、語彙力、統語力、比喩言語力における遅れや学校での指導方法と家庭での読みに関わる関心やサポートの問題があることが指摘された。その一方、聴覚障害児の読みにおいても、低いレベルでの緩やかな発達傾向が示されること、また、健聴児と同様の文章理解の方略を用いる子どもの存在が確認できた。

本研究は、ベトナムにおける聾学校小学部児童の読みの特徴について基礎的かつ科学的知見を見いだし、今後の指導のための示唆を提供しており、博士論文としてのオリジナリティと学術的価値を有する論文であると評価できる。

平成 27 年 10 月 29 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（障害科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。